

行ってこーわい 会ってこーわい

「徳本 忠司さん」

義農作兵衛を広めたい 紙芝居を作成

No. 99

「世のため人のために尽くした人の姿や心を、感動的に今を生きる人たちに伝えていきたい」

そんな思いから、町の偉人「義農作兵衛」の史実を調べ、人間像を考察していった徳本忠司さん＝横田＝。その集大成として、紙芝居を完成させました。「調べていく中で、作兵衛さんは両親や米麦に対する感謝の気持ちと、働く喜びや田を大きくしたいという希望を持っていた。そして、将来の働き手である子どもたちが大好きで、他人に対して共感的理解と連帯感を持っていたのだと感じました。その姿や心情をできるだけ深く描きたいと思い、紙芝居にしました」と話す徳本さん。1年以上かけて作られた紙芝居は、手書きで温もりの感じられる絵に、効果的な音楽がかけられるなど、多くの人が人間「作兵衛」に興味を持ち、人柄を知ってほしいという徳本さんの思いが詰まったものとなっています。

「義農作兵衛の心は、町の柱になっていると感じています。紙芝居を使い、義農作兵衛を広めていきたい」と話す徳本さん。毎日2回ずつ発声練習を行っていると言います。この徳本さんの思いと紙芝居を通じ、自分のことよりも他人を思いやる心は、これからも大切に多くの人へ受け継がれていくことでしょう。



1 紙芝居を披露する徳本さん 2 徳本さんが作った紙芝居。1枚1枚、手書きで丁寧に描かれている

▼編集後記

火育キッズ教室の取材で松前小学校に行ったときのこと。体育館に入場した多くの子どもたちが手を向けてこちらに寄ってきました。「え…な…何」と思っていると、「こんにちは」と言いながら、自分の手と私の手を合わせてにっこり笑う子どもたち。言葉だけのあいさつよりも、距離が近くなった気がしました。

火の暖かさだけでなく、心の温かさも感じた取材となりました。(久保)

今月号の取材では、文化祭やたわわ祭などの大きなイベントに足を運ぶ機会がたくさんありました。広報担当になつてはや8カ月。取材に出掛ける日が多くなると、あつという間に一日が過ぎてしまいます。

これから年末にかけて、年越しの準備などで慌ただしさが増していきますが、災害に対する備えも慌てなくていいように、日頃から準備しておきたいですね。(蔭谷)

Proud! Japan

※日本文化の発展を支援しよう

サンタ

アイスクリーム

アイス サンタ 検索

広告



有料広告募集中

掲載場所 裏表紙の最下段
広告料 20,000円/枠(1カ月)
大きさ 縦40ミリ×横60ミリ
カラー フルカラー

問 総務課広報情報係 ☎ 985-4132